

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
 発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史
 電話 029・227・6020
 FAX 029・227・6291

大子での「除染作業」強行許すな! 福島仲間との団結にかけて 被曝労働絶対反対で闘おう!



除染作業強制を許さない!

全労働者のみなさん!いまJR常陸大子運輸科の検修職場では、E130系気動車のラジエター清掃による被曝労働が強制されようとしている。水郡線の気動車には放射性物質を含むチリやホコリが付着している。線量は高いもので0.28マイクロシーベルト/時あり、39両ある車両全てで清掃するのである。既に7月5日・7日には、現場の反対の声を押し切って管理者の手で作業が強行された。会社の暴挙に対し共に怒りの声を上げよう!

会社は6月26日に現場の労働者に「説明会」を開催し、圧

縮空气中吹き飛ばす方法から水で洗浄する方法に変更し「雨がっぱ、保護メガネ、防塵マスクを使用するから問題ない」としている。これに対し現場労働者から「今までと違うやり方をするのは除染作業だからではないか」「福島の人たちは同じ作業を除染としてやっている」「除染作業と認めないのはおかしい」との意見が出された。しかし会社は「空間線量との差はないから除染ではない」と発言した。空間線量との差がなければどれだけ線量が高くても除染ではないとも言えるのか。より線量が高い福島の職場で働く仲間が聞いたらどう思うだろうか?絶対に許せない!



が作業を除染として認めないのは、放射能による健康被害について今後一切責任を取らないということの表れだ。絶対に認めることなどできない!
 会社はこの説明会の開催によって作業を強行しようとしたが、現場労働者の怒りによって開始を明言することはできなかった。現場労働者の闘いはさらなる被曝労働の強制を押しとどめている。

団結を拡大する闘い

検修の労働者には列車を故障なく走らせたいという強い思いがある。会社はこの思いに付け込んで、どんなに危険な作業であろうと労働者に強制してきている。政府と一体で「原発事故収束キャンペーン」を担うJR東日本は、動労水戸との交渉の場で「年間1ミリシーベルトを目指す」と言いながら、実際には「国は『年間20ミリシーベルトまでの被曝なら健康には影響ない』と言っているから問題ない」として、「安全だ、問題ない」と言いつつ、全ての犠牲を労働者に押し付けているのだ。

青年の怒りと結びつく!

この間JR東労組の地本大会や政策フォーラムの場において、青年労働者が外注化・被曝労働反対を公然と訴えるという事態が起こっている。会社も東労組も青年の怒りを抑え込むことができなくなっているのだ。被曝労働と外注化・強制出向によって命や生活まで奪われることに対する、「俺たち労働者は使い捨てのモノじゃない!」という腹の底からの怒りが青年労働者の中に渦巻いている。労働組合がこの怒りに正面から向き合い、団結して共に闘うことが求められている。会社が利潤追求を優先させ、労働者・乗客・住民の命や安全を無視することに対して、「絶対反対」を掲げて職場で闘うことは労働組合の当たり前の社会的責任だ。職場の仲間、とりわけ青年労働者に共に闘おうと全力で訴えよう。青年の怒りを体現して闘う労働組合をよみがえらせよう!